



ハイエンド、それはオーディオ仲間が集い楽しむ憩いの場 ドイツ、ミュンヘン High End 2012 レポート

森 芳久

今年もドイツ、ミュンヘンの High End 2012 が盛大に開催された。

この世界最大のオーディオショーは、毎年ドイツで最も美しい季節といわれる5月に開催されるが、第31回を数える今回は3日から6日の4日間、日本のゴールデンウィークに合わせたかのような日程であった。

今年は366社もの出展者が集い、昨年の337社に比べ8.6%の増加、その内訳はドイツ国内メーカー48%、海外メーカーが過半数を超える52%となっている。また、世界各国からこのショーに集まった報道陣は483名。昨年の437名を10.5%増となり過去最高の数字を記録した。これらの数字は、このショーが完全に世界のショーとしての地位を築いていることを示している。

来場者は4日間トータルで14,671名。これも昨年の14,079名と比較し4.2%の増加となった。この数字には報道陣の数や出展者関連の入場者2,052名は含まれておらず、これらの発表数字は、ドイツ展示調査委員会がチェックし、市場調査会社のエルンスト&ヤング社が監査したもので、いかにもドイツらしい厳格な数字となっている。このことがまた、このショーに対する業界からの信頼と期待を持たれているところでもあり、よく行われているショー内部者だけによる公称数字とは一線を画している。

世界的にオーディオが不況と言われて久しいが、このハイエンドの会場の熱気に包まれていると、オーディオの世界はまだまだ大きな夢と希望があるように思えてならない。そして、このショーの大きな特徴は、ここに集まるメーカーのブースには、それぞれのトップの設計者やオーナー自らが参加し、ユーザーと熱心なコミュニケーションが図られていることだ。好きだから製品を作っている。好きな製品だから自ら説明する。まさにここではオーディオの原点が繰り広げられている。しかも、みんな少年のような笑顔でオーディオを語り、音楽を楽しんでいる。

今回の来場者14,079名の中で4,427名は業界関連者、さらに出展者の2,052名を加えた6,489名はある意味で競合関係にある人々だ。しかしながら、どこでも和やかな雰囲気が溢れている。そこには、音楽を愛し、オーディオを愛する共通の目的があるからだ。

私もこのショーに毎回欠かさず出向いていくのは、これらのオーディオ仲間と会い、歓談をし、そして彼らの製品に触れ聴くことが楽しいからに他ならない。これは、私がメーカーで働いていたときから続いている素敵な関係だ。そして、彼らとの付き合いはメーカーに所属していたとき、そして今フリーな身になったときも少しも変わりがない。

ハイエンド、そこは音の友達の集う場なのだ。

それでは、以下写真によるショーの雰囲気をとお楽しみください。



(写真 1)
MOC (Munich Order Center)の会場前



(写真 2) 毎回ショー初日に行われる
プレスカンファレンス。今年のハイエンドの
見所などをハイエンド協会の重鎮たちが説明。
(左から、ハイエンド協会副会長アレックス・
マニングー氏、同理事長ブランコ・グリソヴ
ィック氏、同会長クルト・ヘッケル氏)



(写真 3a)

ドイツのハイエンドを牽引する Burmester の社長ディーター・ブルメスター氏。ポルシェ 911 カレラ S に搭載された同社のカーオーディオは会場でも大きな人気を博していた。ブガッティ EB16.4 ヴェイロンにも同社のオーディオシステムが搭載されている。



(写真 3b)



(写真 4) Musical Fidelity の社長アンソニー・マイケルソン氏。彼は優れたオーディオ技術者であると同時に音楽家でもある。同社はレコードも制作しており、彼自らもクラリネット演奏し、CDとしてリリースされている。



(写真 5) スイスのハイエンドメーカー Orpheus。SA-CD, CD プレーヤー、アンプ、ケーブルなどのアクセサリまで手がけ、スイスメーカーらしい精密な手作りが魅力。



(写真6) Avantgarde の
フォルガー・フロンメ社長。



(写真7) 同社の今年
の目玉は重量級の鋳物
シャーシのアンプだ。



(写真8) 芸術の求める情念を
意味する Pathos を社名に掲げる
同社のインテグレートッドアンプ。
会社のロゴがヒートシンクとなっ
ている。



(写真9) チェコの真空管メーカー
KR Audio の Kronzilla SX1 Mk II。



(写真10) ドイツのホーンスピーカー
メーカー Cessaro。ドライバー
ユニットは日本製 TAD を採用。



(写真11) Triode の
300B プッシュプルアンプ。



(写真12) イタリア真空管アンプ
メーカー Mastersound の開発者
ルチアーノ・サナヴィオ氏



(写真 13) フィンランドの業務用アクティブスピーカーの定番 Genelec のブース。



(写真 14) 久しぶりにソニーがハイエンドに復帰。この会場以外にも市内のホテルでサウンドデモを行った。



(写真 15) シンガーソングライター、ギタリストのブルック・ミラーがライブで演奏。会場を盛り上げる。



(写真 16) アナログレコードも依然、堅調。むしろ近年は増加の傾向を辿っている。



(写真 17) 華やかにならんだレコードプレーヤー群。



(写真 18) ドイツ Acoustic Solid の超弩級ターンテーブル、Solid 733。



(写真 19) イタリア Alkemivero の全方向放射型スピーカー。カーボンの筐体、ツイーターはリボン型。



(写真 20) 今年創立 40 周年を迎えた英国 NAD のブース。



(写真 21) TAD の顔とも言える、開発エンジニアの一人、アンドリュー・ジョーンズ氏。海外のショーは彼が担当。



(写真 22) 米 Thiel の社長、また CEA の元会長（現理事）を務めたこの業界のスター、キャシー・ゴニック氏。



(写真 23) スイス Sound delux のファッションブルなスピーカー。サラウンドにも効果を発揮しそうだ。



(写真 24) フランスの Atoll のブース。いかにもフランス的なデザインは好みの分かれるところ。



(写真 25) Ayon の真空管アンプ。元々はイタリアで生産されていたが、現在はオーストリアのウィーン郊外に移住。



(写真 26) おなじみのアナログレコードの販売ブース。レアな掘り出し物が入手できる。



(写真 27) 英国 Chord のブース。
端正な音が魅力。



(写真 28) 日本の G.I.P. Laboratory の
ブースでウエスタンの 15A ホーンの
デモ。なかなかの迫力と臨場感に感動。



(写真 29) デンマーク Gato audio の
インテグレートッドアンプ AMP-150
と CD プレーヤー CDD-1



(写真 30) ドイツ Surroun
Tec のブースではヴァイ
オリニストの生演奏と
再生音の比較実験が行わ
れた。

トーマス・アルベルタス
・イルンベルガー氏の
演奏するガルネリの調べ
に至福の時を過ごした。



(写真 31)
元 Krell の社長、
ダン・ダゴステイ
ーノ氏が、自分の
名前を冠した新
会社を設立。
ハイエンドでも
新製品のお披露
目をした。



(写真 32)
元 Brumester に勤めて
いたウド・ベッサー氏。
新たに独立して AVM
を創立した。
その社名のように AV
製品に力を注ぐと決意
も新た。



(写真 33) ハイエンド・ショーに合わせ、
市内のホテルで hifideluxe munich
2012 も同時開催された。
ここには 48 のブランドが終結、ホテル
の落ち着いた雰囲気の中で音を楽しむ
ことができた。
写真はスイスの Ensemble のブース。
新しい試作品のスピーカーの後ろに
立つのは、同社社長のウルス・ワグナー
氏とアン夫人。